

発行責任者
小林 孝栄

〒180 武蔵野市中町 3-5-5-106
TEL 0422-55-3387



都島だより
KANTO NANIWA
NEWS

KOGYOKAI

投稿送り先
馬江 治喜

〒233 横浜市港南区野庭町696-6
TEL 045-841-8885

14 関東浪速工業会
会報

再度会長として

会長 小林 孝栄 (E29)
四年前の平成四年度に会長を務めさせていただき、今回二度目となります。

前回は先輩の上畑さんにぜひと云う事でお引受けしたのですが、今回は若い人になってもらおうかと云う事で再度お引受け致す事となりました。

振り帰って見ますと関東浪速工業会の会員の総会へ多数の出席を呼びかける事を心懸けたのですが、例年通り全体の10%前後と横バイの状態なのは残念でなりません。

お知らせ

見学会開催の件
場所 日本銀行本店及貨幣博物館
日時 8月8日(金) 14時三越本店正面玄関
集合 ライオン前集合

費用 無料但交通費実費負担
〇〇切 定員なり次第〇〇切
減多に見学出来ないと思ひます。定員30名ですので早目にご記入責任者、投稿送り先又は各幹事迄お申し込み下さい。

なお見学会終了後希望者のみで懇親会を行いますので多数参加願ひます。懇親会費用は参加者実費負担願ひます。

〇場所 紫カントリーあやめコース
〇日時 H8年9月20日(金)
〇定員 16名(4組)
〇〇切 定員なり次第〇〇切

希望者は上記発行責任者、投稿送り先者又は各幹事迄お申し込み下さい。

これは年代が同じであれば集まりやすく、又話しやすいと云う事でしょうか。この様に集まりやすく、話しやすい「関東浪速工業会」にする様、気楽な集まりを目指したいものです。

最近になって世の中の景気も少しは上向きかげんになってまいりました。私達の「関東浪速工業会」も活発に活動したいものです。気楽に参加出来る催物を目指しますのでぜひ多数の参加を御願ひ致します。

「仕事に夢中になる事も必要ですが関東浪速工業会の会合、催会にもぜひ参加を」

地中海文明の源流をたずねて

(A27) 田中 珠也
メソポタミア、エジプト、ギリシャ、ローマと人類栄枯盛衰の足跡の源流を注ぎ込んでいる海、地中海周辺諸国を歩き続け数年を経て、昨年末地中海に関する本を刊行した。

東地中海と称される、ローマ、チュニジアの東側諸国から西側諸国へと文明が移動していった相が沿岸の国々を訪れる度に、この紙面で語り尽くしたいことは、数かきりなくあるが、一点のみにまとめて述べさせて戴く。その一点とは文化と文明の違いである。文明とは、人間が、生の営みをするのに役に立つ実利的な面を言う。火の使用を発明した人類が、やがて自然の山林の木の実を採取していた生活から、農耕生活へと発展したのは、文明の発展であり、生活の向上に貢献したのである。これに對して文化とは、人間が最低限の生活を維持した上で、人間だけが、持っている精神的な営みを

文化と称する。その限界を明確にしないとする説もある。が例えば、中国で飲料として用いられたお茶が、日本に入り精神的価値が加わり、茶道となる。書道もまた然りである。換言すれば、柔道であり、柔術ではない。抽象的な道であり、人工的な高速道路でないものである。拙著も地中海文明の名を冠したが、文明のみならず、文化も語りつくして著した。古くは、アレキサンダー東征からイスラム世界の円熟期を経て地中海は、東洋と西洋とを結ぶ源泉の一であり、さらにユーラシア大陸に及ぶ人類の大きな文化遺産を遺したのである。常日頃、私に次のゲーテの詩が思い起こさせる。

東洋は神のもの、西洋は神のもの、北や南の國も安じている神の御手の平安のなかに。
ゲーテ「西東詩集」(護符)より

大阪弁

(M16) 中野 陽路
「本当に大阪育ちなんです」の質問を受けたことは十人を超えたであろうか。というは講義や会話に大阪訛が全く出ないので、「十九才まで大阪に居た」と言っても信用して貰えないようだ。然し、大阪弁については忘れたことの出来ぬエピソードがあり、青春時代の一駒として披露してみたい。

昭和十六年四月、学窓を出て日本酸素株式会社蒲田製作所に勤務した。職種は機械工場の工程係なので、毎日工具と口を利く。

四ヶ月が経ち、工場の様子にも大分馴れて来た八月の或る朝、目蒲線下丸子駅前交番で工員のS君が警官に何か咎められていた。定刻の八時までは出勤して旋盤を操作していたので些細なことだったであろう。「何をして交番に捕まったんや

阿呆な奴やなァ」と片目をつむり、冗談を言って通り過ぎた。その日の夕方終業間近かに、Sが一寸話があるので、帰りに多摩川の河原まで来て欲しい」と告げられた。軽い気持で約東の場所に着いてみると、私と年齢のあまり違わない技能養成の上級生ら四、五人が待っていて、ボスらしい一人が「新人社員のかせに生意気な野郎だ」と殴りかかってきた。私も応戦したので、四、五倍の数で殴られるので、これでは保たない。「一寸待て、俺のどこが生意気や、悪ければ謝る」と話し合いに出たのである。結論は私の大阪弁にあり、特に「阿呆」が気に入ったようだ。大阪では親愛の情を表す時によく「阿呆」を使う。Sの場合も多分にその意味合いであったが、関東人はこの「阿呆」の一言を侮辱的と受取ることを知った。因みに関西では「馬鹿野郎」と言われると頭にくるのとよい対象である。

Sをはじめ、皆にこのことを判って貰い、これに水を流すべく、下丸子駅前まで掻き氷をこ馳走して別れた。

翌日、何ごとも無かった顔をしてお出動した早々、機械工場の主任に呼びつけられた。

「昨日の夕方、多摩川で喧嘩をしたようだが相手は誰々だー」「いや、喧嘩なんかしていません。」折角よいムードで別れたのに、ここで名前を明かしては信義にもとると、頑強に否認したが、

「仕上工場の主任が、ガス橋の上から一部始終を見ていて、今朝一番に連絡があった」今は、私も嘘を押し通せぬ破目になった。

は疑うべくもない。京浜地区に暮して五十年あまり、妻は茨城県人なので家では大阪弁を使う機会が全くない。万障繰り合せ出席するのも、気兼ねなく大阪弁をしゃべりたい一種のノスタルジアかも知れぬ。自分では東西の言葉、時と場合により完全に使い分け出来るかと内心自負していた。だが、一昨年の忘年会で大阪弁の台詞の入った演歌の「娘よ」を唄った時、「センセの大阪弁、ほんまもんやあらへん」と一言で片付けられ、急に大阪が自分の土地では無くなった淋しさをとどめることが出来なかつたのである。(終)

探しています!!
昭7年入学↓13年3月卒業の方から
12年入学↓17年12月卒業までの方へ私が6年生の年(昭12年)は母校創立30周年の年で、その頃編集部という部があった私は幹事長として30周年記念交友会誌を作り全校生徒に配られました。図画の福田先生筆の日本画の白地の表紙でした。この交友会誌は私の記念の大仕事でしたが戦争などの関係で行方不明になってしまいました。懐しいので何とかもう一度再面したいと常々思っていますので右記年に在学された方で若しお持ちの方ありましたらご連絡下さいませんか。E13卒笹本 (日幸ビルテクノ)

TEL 〇三一五四四一五四八一

お願い

○浪速工業会費納入の件
毎年5月頃浪速工業会本部より会費納入用紙が各同窓生に郵送されてくると思いますが、用紙到着を待たずに、会費納入していただく様子の御協力をぜひ共お願い申し上げます。
皆様の会費により当会は運営されていますのでよろしくお願ひ申し上げます。

一泊懇親会報告

毎年二、三月頃の金曜日に新旧当番科の幹事と有志の会員で近くの温泉へ一泊して前年度の反省と今年度の事業計画、運営等話し合いの団らんの一夜を過ごしています。今年も三月一日(金)箱根湯本温泉富士屋ホテルに泊りました。費用は全て自己負担ですがE笹本様の格別の御配慮により安価に立派な露天風呂に入る事が出来ました。宴会に入ってからオケ大会となり先輩の軍歌や若い幹事の現在の歌などが出て大変な盛り上がりで楽しい一夜を過ごすと事が出来ました。翌日朝M小川様推薦の地球博物館を見学しました。しかし他に御用のある人は各自自由に帰りました。ただM中野様が風邪の為前日キャンセルされ又C榎本様CH柴田様E中野様 松本様は出張の為残念乍ら欠席されました。

参加者A松原、鹿山、信原、M横山、宮嶋、小川、岡野、橋本、石川、E小林、加藤、笹本、松尾、戸部、福田、(敬称略)馬江 計16名でした。(E36)馬江記

浅草の風

(M17) 横山 武男
(2) 松風(銘酒揃え・白雪)
浅草の銘酒揃えの松風は、酒を好む常客で賑わう。
新仲見世と公園通りを交差す

る辺りで、角に松風Vがある。
或る人はここで飲む酒は、晩酌の味だといふ。
樽酒、特級酒、地酒など二十種類以上揃えていて客の銘柄指定でお銚子を出す。最初の一本につまみが二皿付く。お代わり毎に一杯である。
戦後、初めで一人で買った時お燗番の男に教えられたことが、いまだに頭にひらめく。ここは一風変わった珍しい気風の店である。時計の懸かっている壁の貼り紙にいわく。
「連れの方以外とは酌をし合わないでください。
お酒はお一人一本まで。肴はあっさりしたものがお品書きにある。現在は酒の肴は持ち込み禁止であるが、一時期は持ち込み自由ではじめての者はげんかにも思ふ。近所からなにかとくることもできる。(ただし持ち込み料金をいただく。)とある。
常客には、冷水を出す。そして「お酒は何にしますか。甘口ですか、辛口ですか」と聞かない店の人は常客の銘柄を覚えていて、お燗番に大きな声を覚えて知らせる。
「献盃をしない」ということは、自分の好みの酒以外を注がれてもおもしろくない気持を大事にしている。
お燗番は、背後の棚から一升瓶をとって台におき、お銚子の口に差した漏斗に瓶を右手にもち、左手に注いでいく。最後は漏斗を持ち上げながら舐めかす。この酒をつぐ。そして棚に残った酒を瓶に戻す。これまでは、他所でも見た記憶があるが、次の仕事はこの店の独得である。それは銚子を下から上へすうすうと持ち上げて瓶の漏斗に二三滴位か戻す。お燗して運ばれた銚子の酒の上は殆ど口と同じである。お燗の温度もよく、酒の味が何ともいえない。
店に入ってから酒がくるまで

の雰囲気は、さきに書いた晩酌の味というものであろうか。
兄弟二人と叔父さん夫婦と使用人一名で盛りもりのりしている。みんな感じがよく、独り酒を楽しませて呉れる。
ここで知り合った島崎さん(松ヶ谷在住)とはもう十年以上付き合っている。もう十年以上。浅草についているいるおそわった。
平成五年頃から体調が充分でないようにみられるが、いまだ酒は強い。今年になってから会っていない。
この店は五時開店なので、帰宅時間を考えてゆっくりできない。最近はお無沙汰である。島崎さんは勤めを終わって自宅に帰り、ここにこられる常客である。
(3)「志婦や」
地下鉄銀座線の終点、浅草駅で降り、地上への階段を覗き通り出口に出る。北方向のその通りを、浅草寺方向に歩いて数軒目の右側、屋号は変体カナで書いてあるの読み難い看板の店鳥・貝・魚と書いてあるのが目印になる。
この店はよく見掛けていたが、三年ほど前に初めて入ってみた。入って右側のカウンターの中程が丁度お燗番とレジのあるところである。
元気のいいおねえさんが、注文を聞いてくれた。五時開店で常連の客が殆どであったように見受けられた。魚を注文したが地酒一本をつきだして飲んでも料理が来ない。左右の客を見て同じ様である。地酒は新潟とか。三本で早々に引き揚げた。度々、寄ってみて店の空気が少しのみこめたが、しばらく遠退いた。
土地の人の話では、さかかなにについてはよくいわれる。店は親父が引退して兄弟三人でやっていた。レジとお燗番の女は末娘である。竹を割ったような気性で、下町の気づぶだが、人により

り当たりが違うようなことを教えて呉れた。
焼鳥などは炭火で焼く。老舗らしい感じがする。
複数で行ってみると、酒の肴は話などで店の空気に気を使わないからよい。たまに行つてみたい店である。
(4)「ニュー浅草本店」
「しばや」を通り過ぎると、商店街の仲見世通り、それから先は、メトロ通りとなるが、二つ目の四角の右に「ニュー浅草本店」。自動扉を入ると、酒作りのお燗番を台にして蓋を裏返したテーブルが目につく。木目もはつきりして、拭き込まれているテーブルをいつも座るとさわる。ここは、月曜日が休日である。浅草寺周辺の店は火曜日が休みのところが多く、町が静かである。この日に度々行く。常連の人と思える方とよく出会う。
レジで会計をしているのが経営者の二代目である。店長は背が高くほっそりしているが、酒ビールの掛け声は、通りが、酒も聞こえるように歯切れよく高い。肴がきても旨そう気分がよい。
(5)「赤垣酒場」
浅草では二、三回位であるが、ふれあい通りの「赤垣酒場」。ここは「松風」から「神谷」に河岸を変えた顔見知り土地の人に紹介された。カウンターとテの角「ニュー浅草本店」など好一坪を合わせて十五名位のこぢんまりした常客の店で看板は「正一合の店」とある。家族三人でやっている様子。落ち着いた店である。
この路を過ぎるとメトロ通りまで賑わう。
「志婦や」は昨年から調理場の受け持ちが変わった様子である。前と違った雰囲気かどうかのぞいてみたい。ここは五時開店である。
(6)その他
東武浅草駅と松屋の地下街も

赤提灯風な酒場「えるばん」隣が「たんぼ」で、たまにほろ酔いで相手しないが気にしないで探訪したこともある。
また新聞で紹介された「福ちゃん」がある。ソバコーナーが主力で地酒「白扇」を樽のなかのガラスコップに注いで出す。土地の人らしきは煮込み肴にしている。地下鉄から東武に乗り換える客で中華そばの注文が多い。(続)

参加で10才区分毎のタイム良好者順に最も早い人は57分位で泳いだ人が二、三人居ました。本におどろくばかりです。しかし今回は天気は大変に良く、波も低く本当に泳ぎやすい状況でした。しかし招かざる客のクラゲとさされる時が居ました。海で泳いでいるのですから仕方ありません。海水は余りきれいでありますが時々魚が泳いでいるのが見えます。又ブルーと濃い海水なので体が浮いて泳ぎ易く天気は良く本当に気持ち良かったです。ただクロールで泳いだので前方を良く見えないと、とんでもない方向に泳いでしまふ為少々気をつかう事もあります。
さて話は変わりますが、少し前の新聞に載っています。我が国々々中年で思っている人は90%以上いますが、実際一週間に一回以上何かスポーツをしている人は40%位との事。そしてスポーツをしない人の理由は仕事で忙しいからとか疲れているとの理由が殆んどとの事。確かに我々中年は仕事の中心的地位におられると思いが、定年以降もその地位にいる訳ではありません。しかし身体は一生自分で大切にしなければ、だれも大切にしてくれません。ゴルフも良いしジョギングも良いし又水泳も楽しいですよ。仕事も大切ですが自分の健康は自分で管理して健康寿命を自分で延ばす様にしようではありませんか。なお先輩諸氏で水泳をされておられる人がありまして、次回三浦海岸遠泳大会でお会いしたく思いますので御連絡下さい。多くの知人と泳いだ方が楽しいに決まっていますのでよろしくお願ひ申し上げます。
終

花筏 (M18) 小川玉泉
春潮の息の根を止め波ころし川波を枕代りに春の鴨
綾取りの梯子短かし花蓆
嘯りの息継ぐときの地鳴きかな
上げ潮と見ゆる川面の花筏

三浦海岸遠泳 (E36) 馬江 治喜
第12回三浦海岸大会が平成7年8月20日に三浦海岸で開催されました。私は前年の第11回の大会に水泳の友人よりお教えしてもらって初めて参加し今回で2回目の参加です。泳ぐ距離は4kmで途中で泳げなくなれば困ると思いましたが、海岸の浜辺に沿って1kmのコースを浮ゴイで作り両端と中心の三ヶ所の浮ブイに旗を立ててその間を2往復する方法で浜より20m位先はそのコースを作っている為途中で泳げなくなれば浜辺に逃げる事が出来ます。私も最初はこわいと思いましたが、その様なコース作りなので何とか泳げると思い参加しました。初参加の年は完泳が目標だったのでタイムは1時間40分位で完泳出来ました。2回目の年はもう少しがんばってタイムは1時間35分位で完泳出来ました。参加者は18才から73才迄の男女四五〇人余の

「志婦や」
地下鉄銀座線の終点、浅草駅で降り、地上への階段を覗き通り出口に出る。北方向のその通りを、浅草寺方向に歩いて数軒目の右側、屋号は変体カナで書いてあるの読み難い看板の店鳥・貝・魚と書いてあるのが目印になる。
この店はよく見掛けていたが、三年ほど前に初めて入ってみた。入って右側のカウンターの中程が丁度お燗番とレジのあるところである。
元気のいいおねえさんが、注文を聞いてくれた。五時開店で常連の客が殆どであったように見受けられた。魚を注文したが地酒一本をつきだして飲んでも料理が来ない。左右の客を見て同じ様である。地酒は新潟とか。三本で早々に引き揚げた。度々、寄ってみて店の空気が少しのみこめたが、しばらく遠退いた。
土地の人の話では、さかかなにについてはよくいわれる。店は親父が引退して兄弟三人でやっていた。レジとお燗番の女は末娘である。竹を割ったような気性で、下町の気づぶだが、人により

赤提灯風な酒場「えるばん」隣が「たんぼ」で、たまにほろ酔いで相手しないが気にしないで探訪したこともある。
また新聞で紹介された「福ちゃん」がある。ソバコーナーが主力で地酒「白扇」を樽のなかのガラスコップに注いで出す。土地の人らしきは煮込み肴にしている。地下鉄から東武に乗り換える客で中華そばの注文が多い。(続)

花筏 (M18) 小川玉泉
春潮の息の根を止め波ころし川波を枕代りに春の鴨
綾取りの梯子短かし花蓆
嘯りの息継ぐときの地鳴きかな
上げ潮と見ゆる川面の花筏

参加で10才区分毎のタイム良好者順に最も早い人は57分位で泳いだ人が二、三人居ました。本におどろくばかりです。しかし今回は天気は大変に良く、波も低く本当に泳ぎやすい状況でした。しかし招かざる客のクラゲとさされる時が居ました。海で泳いでいるのですから仕方ありません。海水は余りきれいでありますが時々魚が泳いでいるのが見えます。又ブルーと濃い海水なので体が浮いて泳ぎ易く天気は良く本当に気持ち良かったです。ただクロールで泳いだので前方を良く見えないと、とんでもない方向に泳いでしまふ為少々気をつかう事もあります。
さて話は変わりますが、少し前の新聞に載っています。我が国々々中年で思っている人は90%以上いますが、実際一週間に一回以上何かスポーツをしている人は40%位との事。そしてスポーツをしない人の理由は仕事で忙しいからとか疲れているとの理由が殆んどとの事。確かに我々中年は仕事の中心的地位におられると思いが、定年以降もその地位にいる訳ではありません。しかし身体は一生自分で大切にしなければ、だれも大切にしてくれません。ゴルフも良いしジョギングも良いし又水泳も楽しいですよ。仕事も大切ですが自分の健康は自分で管理して健康寿命を自分で延ばす様にしようではありませんか。なお先輩諸氏で水泳をされておられる人がありまして、次回三浦海岸遠泳大会でお会いしたく思いますので御連絡下さい。多くの知人と泳いだ方が楽しいに決まっていますのでよろしくお願ひ申し上げます。
終

「志婦や」
地下鉄銀座線の終点、浅草駅で降り、地上への階段を覗き通り出口に出る。北方向のその通りを、浅草寺方向に歩いて数軒目の右側、屋号は変体カナで書いてあるの読み難い看板の店鳥・貝・魚と書いてあるのが目印になる。
この店はよく見掛けていたが、三年ほど前に初めて入ってみた。入って右側のカウンターの中程が丁度お燗番とレジのあるところである。
元気のいいおねえさんが、注文を聞いてくれた。五時開店で常連の客が殆どであったように見受けられた。魚を注文したが地酒一本をつきだして飲んでも料理が来ない。左右の客を見て同じ様である。地酒は新潟とか。三本で早々に引き揚げた。度々、寄ってみて店の空気が少しのみこめたが、しばらく遠退いた。
土地の人の話では、さかかなにについてはよくいわれる。店は親父が引退して兄弟三人でやっていた。レジとお燗番の女は末娘である。竹を割ったような気性で、下町の気づぶだが、人により

赤提灯風な酒場「えるばん」隣が「たんぼ」で、たまにほろ酔いで相手しないが気にしないで探訪したこともある。
また新聞で紹介された「福ちゃん」がある。ソバコーナーが主力で地酒「白扇」を樽のなかのガラスコップに注いで出す。土地の人らしきは煮込み肴にしている。地下鉄から東武に乗り換える客で中華そばの注文が多い。(続)

花筏 (M18) 小川玉泉
春潮の息の根を止め波ころし川波を枕代りに春の鴨
綾取りの梯子短かし花蓆
嘯りの息継ぐときの地鳴きかな
上げ潮と見ゆる川面の花筏

参加で10才区分毎のタイム良好者順に最も早い人は57分位で泳いだ人が二、三人居ました。本におどろくばかりです。しかし今回は天気は大変に良く、波も低く本当に泳ぎやすい状況でした。しかし招かざる客のクラゲとさされる時が居ました。海で泳いでいるのですから仕方ありません。海水は余りきれいでありますが時々魚が泳いでいるのが見えます。又ブルーと濃い海水なので体が浮いて泳ぎ易く天気は良く本当に気持ち良かったです。ただクロールで泳いだので前方を良く見えないと、とんでもない方向に泳いでしまふ為少々気をつかう事もあります。
さて話は変わりますが、少し前の新聞に載っています。我が国々々中年で思っている人は90%以上いますが、実際一週間に一回以上何かスポーツをしている人は40%位との事。そしてスポーツをしない人の理由は仕事で忙しいからとか疲れているとの理由が殆んどとの事。確かに我々中年は仕事の中心的地位におられると思いが、定年以降もその地位にいる訳ではありません。しかし身体は一生自分で大切にしなければ、だれも大切にしてくれません。ゴルフも良いしジョギングも良いし又水泳も楽しいですよ。仕事も大切ですが自分の健康は自分で管理して健康寿命を自分で延ばす様にしようではありませんか。なお先輩諸氏で水泳をされておられる人がありまして、次回三浦海岸遠泳大会でお会いしたく思いますので御連絡下さい。多くの知人と泳いだ方が楽しいに決まっていますのでよろしくお願ひ申し上げます。
終